

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693500015		
法人名	社会福祉法人京都南山城会		
事業所名	グループホーム涌出ぬくもりの里		
所在地	京都府木津川市山城町平尾里屋敷69番地の4		
自己評価作成日	平成27年9月10日	評価結果市町村受理日	平成28年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyouCd=2693500015-008&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との交流の場を増やす努力をしている。イベントを通じてボランティアの協力を得ている。 ・センター方式・ライフサポート使途を用いてその方の想いを大切に生活を支えることに努めている。 ・ターミナルケアを積極的に受け入れている。最期まで看取る事に対してのご利用者、ご家族様への身体と心のケア ・訪問介護の強化。自宅で暮らしながら自分で出来ることを尊重した支援をしている。外出を積極的に計画し行っている ・身体拘束、認知症ケアなど施設全体、または涌出独自で勉強する機会を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人の理念である「支えあって ほほえみあって安心して住めるまち」を基にホームの事業目標を掲げ、利用者の尊厳を守る介護となるよう、やさしく丁寧な対応を心がけています。朝礼時には目標を声に出して意識し、会議や勉強会で目標に沿った介護が提供できているかを振り返っています。地域の行事のパンフレット作りやイベント時には出店コーナーを設けてもらうなど地域の一人としての交流が定着しています。管理者は、認知症サポート講座の役割を担い地域へ発信し、認知症に対する理解が深まるよう日々研鑽しています。終末期ケアに積極的に取り組み、職員は利用者や家族の思いに寄り添いホームで最期を迎えられるよう支援しています。また、研修や勉強会で認知症ケアについて学ぶ機会が多くあり、利用者の穏やかな暮らしに向けてチームワーク良く日々の支援に取り組んでいます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お一人お一人の尊厳をまもり、優しく、あたたかく、丁寧でわかりやすいケアに努めている。・朝礼、会議などにおいて常に理念を皆で確認し合い共有しサービスの質の向上に努めている。	法人の理念と介護方針を基にホーム独自の事業目標を掲げています。一人ひとりの尊厳を守るケアを提供したいとの思いが込められ、朝礼時には唱和することで理念を確認し、意識づけを行っています。日々やさしく、丁寧な支援を心がけ、会議や勉強会、朝礼時に理念に沿った支援が提供できているかを振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・地域の行事(納涼祭、ラジオ体操、敬老会)に参加し、施設行事(夏フェス、餅つき等)に地域の皆様にチラシを配布するなどして、参加して頂いている。	運営推進会議や老人会・自治会会長、近隣の方から地域情報をもらい、納涼祭や敬老会等の地域行事に参加したり、夏祭りや餅つき等のホームの行事にも多くの方の参加を得ています。また、ホームの玄関先を子ども会のラジオ体操の場として地域に開放するなど地域との良好な関係が築かれています。定期的に傾聴や書道、手芸等地域のボランティアの来訪もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域で行う徘徊模擬訓練に参加。下半期においては、地域の方々に、涌出ぬくもりの里を知って頂くために行事などを通じて機会を作っていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一回運営推進会議を開催し、写真を見て頂きながら行事や普段の様子を報告、事故の報告。再発防止策の報告をしている。地域との交流が少なかったが、推進会議での意見から、地域の方々に事業所へ来て頂けるような行事、呼びかけをしている。	会議は市の職員や地域包括支援センター職員、民生委員、家族等の参加を得て年6回開催し、ホームの状況や行事予定、事故等の報告後、意見交換を行っています。地域の行事と日帰り旅行の日程が重なった事についての指摘があり、日程調整等の検討を綿密に行うよう話し合うなど、改善し運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議に木津川市高齢介護課の方にも参加して頂き、関係を気付いている。地域ネットワーク会議にも出席している。	運営推進会議には市職員の出席もありホームの実情を理解してもらい、相談事や質問がある時には窓口へ出向き聞いています。行政より依頼を受け認知症家族の会へアドバイザーとして参加したり、研修案内が届いた際には出来る限り参加し、良好な関係を築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束ゼロ委員会の活動を中心にアンケートを実施することにより禁止行為の確認とケアの振り返り、行為の有無を定期的に確認している。また9月から改めて涌出の中で身体拘束の勉強会を実施し、「今月の目標」を決定し、次回会議にて評価している。	法人の身体拘束委員会が中心となって行う研修に全職員が参加し、欠席者には身体拘束委員より伝達を行い周知しています。職員対象のアンケートで出された意見を集計し、勉強会や会議の場で事例を挙げて身体拘束に繋がらない介護の方法を学んでいます。玄関やフロア出入り口は開放し、閉塞感のない支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体拘束ゼロ委員会実施のアンケートで事故及び他スタッフの虐待行為、言葉による拘束がないか確認している。委員会に置いても見守り/パトロールも行っている。(ハード面、ソフト面の確認)		

グループホーム涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・市が行っている成年後見制度の勉強会に参加している。GHではないが、ご利用者の中には制度を利用されている方もおり必要に応じて活用している。また地域連携窓口を利用して日頃から相談させていただいている。今後司法書士の先生より勉強する機会を作っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に、契約書、重要事項説明書をすべてご家族に説明し、質問、不明な点があれば説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。行事、運営推進会議、来設された際、随時、意見、要望を聞いている。年1回の満足度調査の実施。ケアについて出された意見については、真摯に受け止め速やかに対応し、サービスの向上に反映させています。	運営推進会議や行事、面会に来られた際や年1回の満足度調査アンケートの中で意見や要望を聞いています。出された意見により面会時に寛げる場所として居室以外のスペースのレイアウトを検討したり、移乗や体位変換の安全で安楽な支援方法について家族も交え話し合い、安心に繋がるケアの統一を図る等、運営やサービスに活かせるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議、班長会議にて意見や提案を検討する機会を作っている。年2回、施設長や管理者との面談もあり意見、要望、相談など、運営に反映されている。毎日、随時、朝礼などにも受け付けている。会議などでも議題として話合っている。	年2回行う個人面談や朝礼時、会議の中で意見や提案を聞いています。家族の安心を得られるよう個別の申し送りノートを作る提案を実践したり、遠方にあるスーパーでの買い物時間短縮に向けての方法や終末期に於けるソフト食についての意見が出され取り組むなど、意見や提案をサービスに活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価をする機会を持ち、それをもとに施設長、管理者との面談を実施している。キャリアアップの整備も行っている。管理者と話す機会を持ち、向上心が持てるよう指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で各委員会主催で研修を企画し、職員のスキルアップを図っている。又、希望する研修には出来るだけ参加してもらっている。個々のスタッフの能力に応じた外部研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修において、同業者の方々と交流する機会を設けている。法人内では、委員会や行事の際に交流を図っている。同業施設や、同施設内の施設研修も行っている。		

グループホーム涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後、1週間、24時間シート・私の姿シート・アセスメントをもとに、ライフサポートを作成することで、安心して暮らして頂ける様、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階では特に、ご家族に困っていること、不安なこと、要望を聞くために、電話等で密に連絡を取るよう努めている。必要に応じて家人を踏まえたカンファレンスを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の状態を知り、まず必要とされる支援を見極め他のサービスも含めた対応に努めている。小規模ご利用の方が入居される場合、その時の様子によっては、日中なじみの関係を維持し、安心して頂くため、小規模に参加して頂く事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る方には、掃除、食事の準備、片付け、洗濯物等の家事を行なって頂き、日常生活においても、ご自分で出来ることは、ご自分でして頂けるよう働きかけている。昔からの習慣などお聞きしながらともに助け合える関係を気付いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族に向け1ヶ月のご様子をお知らせする手紙を出しており、参加頂ける行事等のお知らせも行なっている。受診(緊急を除く)は基本的にご家族に対応して頂くようにしている。日帰り旅行や、敬老会等、ご本人とご家族と一緒に参加出来る行事も企画を行なっている。これらの取り組みを行ない、ご本人とご家族の関係性が薄くならないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事や近所の神社に初詣に出かけている。近所のヘアーサロンを利用する等馴染みの関係を気付いている。地域の色んな方がいつでも面会に来られるよう、対応している。	知人や友人、姉妹の来訪時には居室へ案内したり、またゆっくりしてもらえる場所をレイアウトにも配慮し提供しています。住んでいた近所の神社や馴染みの場所への散歩、ドライブで自宅近くを周ったり、以前に行っていたスーパーに出かける等、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握、配慮して座席を決めており、ご利用者同士が支え合い、声かけしながら過ごされている。役割分担を行っている。		

グループホーム涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用されていたご利用者のご家族が、清掃などのボランティアに来てくださっている。またご近所のご家族はお子様を連れて、施設の畑を見に来てくださったりと交流が継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在「私の姿シート」「24Hシート」「アセスメントシート」を総括した「ライフサポートシート」を作成中。年に2回カンファレンスを実施し検討している。意思疎通困難な方は、日頃関わる中でご本人の想いを汲み取るようにしている。	入居前の面談で本人、家族から生活歴や趣味等を聞きケアアセスメント表に記入し、家族に書いてもらった情報も加え思いや意向の把握をしています。入居後は日々の様子や表情、発した言葉等の記録より思いを汲み取り、困難な時はカンファレンスで話し合い、利用していた事業所の情報も参考にし本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族から生活歴や暮らし方の希望などを聞いて基本情報に記入し、思いの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「私の姿シート」「24Hシート」「アセスメントシート」を総括した「ライフサポートシート」を作成し、ご利用者の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者によるアセスメントに基づき、6ヶ月に1回カンファレンスを実施し、介護計画を見直している。	アセスメントや本人、家族の希望を基に介護計画を作成しています。担当者が毎月モニタリングを行い、申し送りノートに書かれた意見等も参考に目標の達成度の確認と評価を行っています。半年毎の見直し時や随時の見直し時には再アセスメントを行い、職員間で共有しています。サービス担当者会議に看護師や家族の参加もあり、事前に聞いた医師の意見も計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアはカルテに記入。職員間で情報を共有し実践している。介護計画に見直しはカンファレンス等で話し合いを行っている。月末には担当者がケアプランを評価し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況やニーズに対応し、外出や通院介助などの支援を行っている。		

グループホーム涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道、手芸教室、傾聴ボランティアの方に来て頂いている。一度来設して頂いたボランティアの方には、次回の行事にもお手伝い頂ける様、声かけしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に引き続き診ていただいている。又、専門医への受診が必要と思われる場合は、受診して頂いている。緊急時は主治医に連絡し、指示を仰いでいる。	かかりつけ医を継続出来る事や協力医について説明し、近隣のかかりつけ医の資料も見てもらい主治医を選んでもらっています。協力医の往診が2週間毎にあり、24時間連絡を取ることが可能で指示を仰いだり、随時の往診に対応してもらっています。併設の事業所の看護師が毎日利用者状況を把握し、受診時の付き添いや医師との連絡調整等の連携が図られています。専門医への受診は家族が付き添い、必要に応じ職員も対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小規模のNSと連携し、必要に応じた対応が取れている。1日1回NSがGHフロアに入り、皆様の状況を把握し、医療日誌にて情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まると、サマリーを作成し、病院に提供している。退院に際してはカンファレンスに参加する場合もある。退院時病院側よりサマリーを頂く等、必要に応じて情報交換も行なっている。また主治医とも連携をとり退院後のご利用者の様子について密に情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にターミナルについて重要事項説明書を説明し、同意を得ている。家族、医師、NS、職員と話し合いし、チームとして取り組める体制作りをし、その方にあった終末期を安心して過ごしていただけるようケアを行なう。	契約時に看取り介護指針を基に重度化時の対応についてホームの方針を伝え、重度化に伴い状況をみながら医師や家族、職員と都度話し合い、確認と同意のもと看取りの支援を行っています。家族の宿泊や点滴の対応も可能で三者が協力し合っています。外部の講師を招いた研修の機会やターミナル委員会がアンケートを実施し、職員の不安軽減に繋がりがケアが行えるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で定期的開催されている普通救命講習を機会があれば受講するようにしている。施設にはAEDを設置しており使用方法などの勉強会を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、日中や夜間想定でご利用者と一緒に行なっている。地域の皆さんに参加頂いた事もある。今年は福祉避難サポートリーダー養成研修に参加します。	併設の小規模多機能事業所と合同で年2回消防署の協力の下、昼夜を想定した訓練を利用者と一緒に行っています。緊急マニュアルに沿って通報や初期消火、避難誘導の訓練を行い、アドバイスをもらっています。3日分の水や食料を備蓄しています。運営推進会議では報告をしており、今後も以前のように地域の方に参加が得られるよう案内する予定にしています。	

グループホーム涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束ゼロ推進委員会において、高齢者の尊厳を学び、アンケート等で振り返りを行なっている。又月一回身体拘束について勉強会を実施し、「言葉かけ」についての目標を決め取り組み、次回評価をしている。	尊厳について法人が行う様々な研修を全職員が受講し、欠席者には資料を基に個々に伝え周知しています。言葉かけは声のトーンや大きさに配慮し、他の利用者の前で個人情報については話さないよう心がけています。名前も名字で呼び丁寧語での対応に配慮しています。勉強会で言葉かけについて振り返り、不適切な言葉かけや対応がないように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を直接お聞きし、聞き取りが難しい場合は普段の関りの中から思いをくみ取れるよう努力している。自己決定して頂けるよう、いくつかの選択肢をあげるなどの工夫をして、働きかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常にその方々の暮らし方やペースを大切に、支援するよう努めている。「待つ介護」も大切であると理解し、支援している。センター方式を用いてご本人の表情や思い、言葉を見逃さず、ご家族からもこまめにお話を伺い、職員会議でいろいろ考えて「その人らしく生活する」ことを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前からご使用されていた化粧水、乳液、化粧品などはそのまま持ち込んで頂き、ご自分で出来ないように支援している。整容は自分で出来る方はご自分。出来ない方は職員が介助し常に身支度を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は少しでもご利用様と寄り添える時間を作る為、業者に注文し、温めてから盛り付けしたものを提供している。朝夕はご利用者が食べたいものを聞き、旬の物、初物を取り入れている。ご利用者には、皮むき、食器洗い、炒める等、出来ることに携わって頂いている。	昼食は業者から下ごしらえされた食材を配達してもらい調理、配膳しています。朝食と夕食は食べたい物を聞き、献立担当者が1ヶ月の献立を作り、2日毎に利用者と一緒に買い物に行っています。利用者は皮剥きや炒める、洗い物等出来る事に携わっています。旬の野菜や収穫した野菜を取り入れたり、手作りおやつや昼の献立を止めお好み焼きや流し素麺を提供する等、食事が楽しみとなるように努めています。嫌いなものについては代替食を提供し、外食での回転寿司や出前の鯖寿司等が楽しみとなっています。職員も同じ物を食べながら楽しい食事となるよう雰囲気作りにも努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合チェック表にて1日の摂取量をチェックしている。水分量も記入し、少ないと思われる方には、お茶やポカリゼリー(手作り)を提供し、形態を工夫して水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前に丁寧に口腔ケアを行なっている。2名の方は定期的に訪問歯科診療を受けている。		

グループホーム涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	総合チェック表から個々の排泄パターンを把握し声掛けやタイミングを見てトイレ誘導を行い、トイレ内で排泄できるように支援している。個々の能力や状況を見極めながら支援している。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表から個々の状況を把握し声掛けや誘導を行っています。重度化や終末期にあってもトイレへ行きたい利用者の思いに寄り添い、医師や看護師と相談しながらトイレで排泄できるように支援しています。おむつから紙パンツになった方やトイレへ向かう様子を察して支援し、布下着に変わった方もいる等、自立へと繋がるようカンファレスで話し合い取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝必ず乳製品のを1品つけるようにしている。ヨーグルトや牛乳でお腹を下す方もおられる等把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回以上を目安に午後から入浴して頂き、ご利用者のペースに合わせている。拒否される時は声掛けのタイミングを図り、翌日に入ってもらうなど、柔軟に対応している。季節によって、ゆず湯や菖蒲湯も入れて、季節を楽しんで頂いている。	入浴は週2回以上を目途に午後に入ってもらえるよう支援し、希望があれば毎日入ることも可能です。夜間も希望があれば支援したいと考えています。利用者と一緒に準備しながら焦らずにゆっくりと入ってもらい、好きな匂いのシャンプーや化粧品を使い、柚子や菖蒲等の季節湯、冬には入浴剤を入れ楽しんでもらえるよう工夫しています。拒否があれば誘導方法の工夫や日を変え入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースに合わせて、起床時間を調整しているが、日中は、昼寝をして頂いたり、活動して頂くなど、メリハリをつけて生活を送って頂ける様工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人ずつの服用されている薬の一覧表を作成し、職員皆が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、配膳、掃除、洗濯物たたみ等の家事の役割、毎日のカレンダー作り等、手仕事を行って頂く事で「一緒に生活している」と実感して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	裏のお宮さんにお参りに行ったり、近所を散歩したりしている。年1回日帰り旅行も企画している。スーパーへの買い物に同行して頂いたり、地域の行事への参加や、畑の世話など外気に触れて気分転換を図れるよう支援している。	天気のよい日は車椅子の利用者も近辺を散歩したり、畑での菜園作りで気分転換を図っています。地域の様々な行事に参加し、スーパーへ買い物に出かけています。初詣や近くの公園へ紅葉やコスモスを見に行き桜を見に出かけています。恒例の日帰り旅行には家族も参加したり、また個別の希望で陶芸サークルや買い物等の外出支援にも取り組んでいます。	

グループホーム涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はなく、ご希望により、ご家族了解のもと、立て替えにて購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話、ハガキを出したりされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の畑では季節の野菜、花などをご利用者と一緒に育てている。ご利用者と作成した季節ごとのカレンダーや、作品等を飾り、季節感を出すようにしている。又、なるべく安心して穏やかに過ごしていただけるよう配慮して、環境整備を行なっている。	玄関に季節毎の生花を活け、畑で育てる野菜や花作りの他、リビングには大きな手作りカレンダーに季節毎の作品を飾る等、季節を感じてもらえるよう工夫をしています。利用者同士が関係よく過ごせるようテーブルやソファの配置に配慮したり、一人や仲のよい方が一緒に過ごせる空間作りにも努めています。加湿器を置き、温・湿度の管理や換気を行い、掃除は毎日利用者と一緒にいき居心地よく過ごせる共用空間となるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外なかなかゆっくりと過ごせる居場所は少ないが、その中でも、ソファなどを置き、思い思いに過ごせるスペース作りをしている。誰かがいることで安心できる場として、また仲の良い方々がお話しされながら洗濯物をたたまれたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時はなじみの家具などを持ってきて頂く様声掛けしている。ご本人が安心できる様、ご家族などと相談しながら工夫している。ご家族の写真や好みの物など飾っている方も多し。	入居時に使い慣れた物を持参してもらうよう説明し、利用者は藤の椅子や筆筒、リクライニングチェア、テレビ、冷蔵庫、加湿器、時計、寝具、仏壇等を持ち込み、家族と相談しながら安全面にも配慮した配置の工夫をしています。洗面台には庭に咲く花を飾り、書の道具や化粧道具を身近に置き、蛍光灯の紐も自宅と同じ長さにし安心して居心地よく過ごせる居室となるよう配慮がなされています。毎日利用者と掃除を行えるよう支援し、換気にも気を配っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目の悪い方に配慮して、障害物を片付ける環境整備を行なっている。ハード面では手すりをつけ、バリアフリーになっている。トイレの場所も分かりやすく表示してある。		